社会福祉法人
スマイリング・パーク

介護ロボット・ＩＣＴ機器
導入事例報告

～ ICT・ロボット導入で働き方を変えるスマイリング・パーク！！ ～

社会福祉法人スマイリング・パーク
理事長　山田一久

本日の流れ

1.スマイリング・パークとは（8分）
2.私たちが影響を受けた企業（4分）
3.法人で進めているDX化について（33分）
4.何をBASEにしているのか？（5分）
5.尊厳について（10分）

本日の流れ

1.スマイリング・パークとは（8分）
2.私たちが影響を受けた企業
3.法人で進めているDX化について
4.何をBASEにしているのか？
5.尊厳について

本日の流れ

1.スマイリング・パークとは
2.私たちが影響を受けた企業（５分）
3.法人で進めているDX化について
4.何をBASEにしているのか？
5.尊厳について

私たちが変化する中で影響を受けた企業

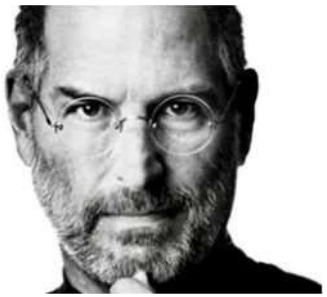
～　現状維持圧力に挑戦した Apple　～

『THINK DIFFERENT』

「発想を変える」　　「ものの見方を変える」

「現状維持圧力に対する挑戦意識」

挑戦



1997年　Appleの CEOに復帰したばかりだったスティーブ・ジョブズの哲学を反映させた
Apple Computerのスローガン

THINK DIFFERENT

違う考えを持ち、世界を前に進ませた人々

情熱を燃やす人は、
社会をより良い方向に導く！

私たちの存在理由は・・

違う考えを持ち
社会を前に進ませる事です

本日の流れ

1.スマイリング・パークとは
2.私たちが影響を受けた企業
3.法人で進めているDX化について（30分）
4.何をBASEにしているのか？
5.尊厳について

DXって何？

DX（デジタルトランスフォーメーション）？

- デジタル技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革すること
- 既存の価値観や枠組みを、根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの

日本国内の福祉事情は？

日本国内の福祉事業所は**人手不足に悩まされ**ており、**人材確保の問題**を解決するために、**テクノロジーや自動化を利用するケースが増えている**。

より良い賃金、福利厚生、労働条件を求め、**有能な職員たちが仕事を辞めている**。その結果、**人手不足が深刻化**している。

今現在の状況は、多くの法人や事業所が職員を集めるために賃金を上げたり、更なる福利厚生の充実をさせているが、**中には技術的な解決策（テクノロジー等）に移行（依存・願望）**しているところもある。

スマイリング・パーク

導入前はどうなっていた？！

ＩＣＴ導入前（2007年）
「ほほえみの園」の課題

① 高い離職率

離職率は、ピーク時に法人全体で**2003（平成15）年度に25%**であった。福利厚生の整備が遅れていたなどの問題が山積していたとは考えるが、その中でも**慢性的な時間外勤務**や**何度も同じ事を書かなければならない**記録物などが、職員にとって大きな悩みであった。

② 業務の非効率化

ケアに一生懸命に取り組む職員はおのずと「記録」と言われる業務量までもが異常と言っても過言でないほど増えていった。「記録がしっかりと残っていなければ入居者がよく観えてこない」などと、口を揃え指導する職員もいた。全て手書きで行っていた。

③ タイムカードによる勤怠管理

職員は出退勤時にタイムカードを押していた。しかし労務管理そのものがアナログで、労務を管理するには余りにも杜撰な管理方法であった。**2012年には労働基準監督署から年次有給休暇の取得が進んでいないとのご指摘や、タイムカードによる出退勤管理に疑問を呈されていた。**

ＩＣＴ導入に際し
表出した課題

①システム導入のコスト

ICTの導入には多大なコスト（初期導入費）がかかる事が情報取集の中で見えてきた。ICT導入によって**業務効率化が進み残業代などが削減できる**としても、**ほほえみの園の規模（50床）では導入コストと維持（年間の保守費用など）コストにかかる費用が大きかった。**

②コンピューターを不得手としている職員

職員の中には**50歳代のリーダー格**もいたが、兼ねてよりパソコンなどのデバイスの操作スキルが低く、**満足に使いこなせない職員がいた**のである。**「手書きの方が良い」「コンピュータを触った事がほとんどない」「今から覚える事は無理」「もう勤められません」**など、様々な声が上がった。

③ 導入反対派の登場！

　ほほえみの園ではICTの導入に至るまで、**「職員が対面しての申し送り」を重視**していた。また、**その「業務」をとても大切にしており夜勤明けでも時間をかけて行っていた**のである。直接会って会話をする事で安心感や達成感を味わう職員も少なくなく、**顔も見ずに申し送りが行われる事に不安**や**未達成感**を覚えたようである。

④ 情報漏洩に対するマイナスリスク

　多職種連携において**看護職員や介護職員、相談員や事務職員が一つのサーバー機を介して情報の多くを共有または管理する**事になる。そこで心配した事が個人情報の漏洩であった。個人情報については省庁によって多くのガイドラインが示され、ほほえみの園でも規定は設けているものの、**インターネットを介してデータが行き交う状態に、適切な情報管理ができるのかを不安**に思った。

対策

2007年当時の
表出した課題に対する
対策

①システム導入のコスト対策

ICT技術を持つメーカー及び販売代理店による**プロポーザルを行い、質の担保とコスト削減**に結び付ける事ができた。また**職員の業務軽減が見込める事も分かり、プラス面のリスクがマイナス面を上回ると判断**できた。

②コンピューターを不得手としている職員対策

ほほえみの園内での講習会等を実施し、**プリセプター方式**（プリセプター（新人教育担当者）がプリセプティ（新人職員）の操作や入力フォローを行い不安や負担感を軽減）を取り入れた教育や全ての職員が安心してパソコン等のデバイスを使用して業務を効率よく行えるように**写真付きのマニュアル**を整備するなどの配慮に努めた。

職員たちは**普段使っているスマートフォンやメール操作と変わらない事を体験**した事で安心できたようだった。よって、全ての職員ではないもののICT導入に向けての**大きな抵抗は時間が経過すると共に消失**していった。

③導入反対派対策

「対面しての申し送り」を重視するとのスタンスは残し、**付加する形でiPadやパソコン等のデバイスを介しての情報共有**を行い、コミュニケーションをとるように修正をした。**マイノリティの意見に配慮**した事でスムーズに導入が進んだ。

④情報漏洩リスク対策

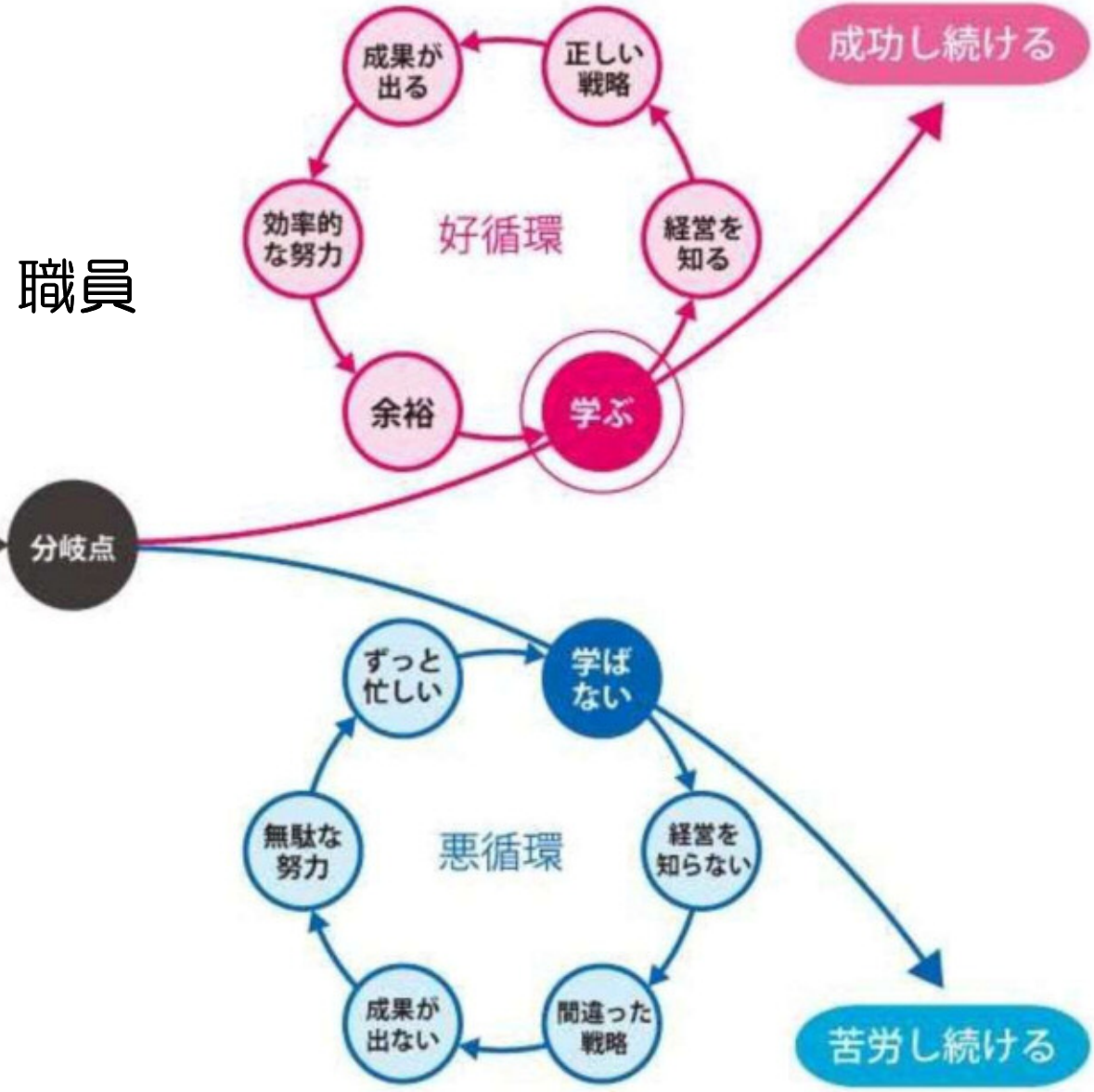
一つのサーバー機にデータログが残る事を確認した。また**職員各々に対しIDとパスワードを発行**できるシステムである事と、**データとして安易に抽出できない事が確認**できた。よって、情報漏洩に対するマイナスの**リスクは解消**された。

学ぶ者と学ばない者

2022年
全ての職員で違いを共有

法人・理事長
施設長・管理者・職員

START



これから日本人が激減します。
私たちは、その為の準備を行っています。

- ●今と同じサービス（質を担保）を提供する為にICTやロボットで補う
- ●これからのロボットは、もっと身近な存在になる事を踏まえ日常の中に取り込む
- ●私たちがすべき事は、輝くスター（人財）の育成に専念する事
- ●時代の流れに抗う事なく、少しずつ先手を打つ
- ●職員たちをテクノロジーで守り、幸せな職場環境を提供する

施設・在宅介護で起こり得る不安とは？

- 人手不足
- 体力の低下
- サービス提供スピードの低下
- コミュニケーション能力の低下
- 記憶力や判断力の低下
- 腰痛や膝痛
- 孤独　等

worried

だからこそ

ロボット・ＩＣＴの導入が必要でした。

スマイリング・パーク
実際に導入しているＩＣＴ・ＩＯＴ 等

2022年度のトピック

ソフトウェア・アプリの見直し開始

全てのデバイス・アプリとツナガル

ケアカルテ+ハナストを導入

CARE CONNECT JAPAN

記録をツナげてイカす

介護記録ソフト

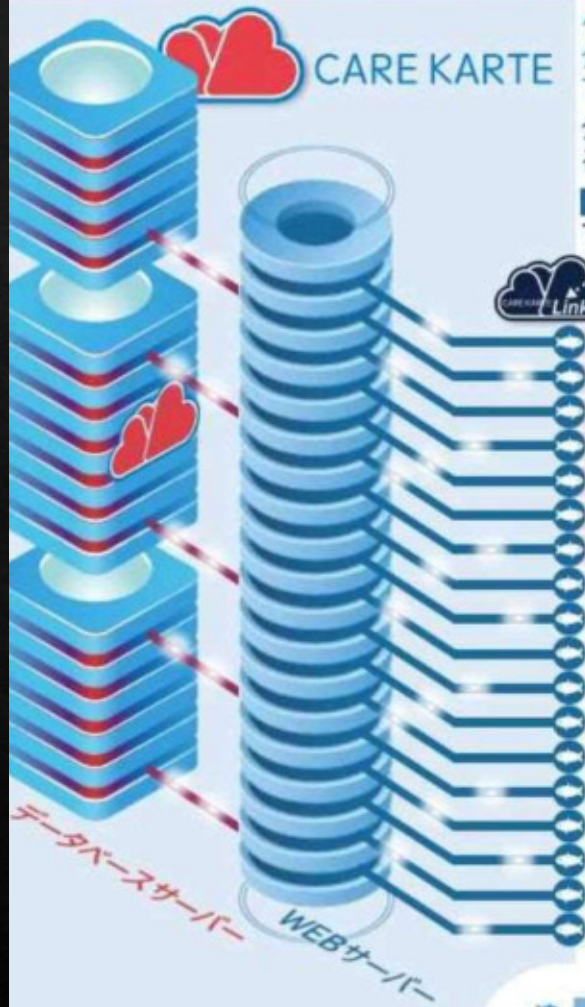
モバイルで簡単記録入力

- ☑ ICT機器連携できる！
- ☑ カスタマイズできる！

CARE KARTE

ケアカルテ

CARE KARTE Link ケアカルテリンク



ケアカルテのデータベースは、ケアカルテで入力した情報(利用者情報、スケジュール、ケアプラン、介護記録、請求情報等々)だけでなく、見守りシステム、ナースコール、バイタル測定機器等と連携して入力される様々な情報を蓄積できる仕組みになっています。

介護事業所で使用されている様々なシステムや機器との連携をスピーディーかつ低コストで実現するために CAREKARTE Link を開発し、提供を開始しています。

CAREKARTE Link には、ケアカルテとの連携に必要なインターフェース(API)が多数用意されており、連携先メーカー様にてAPIを使用いただくことで容易に連携することができます。

CAREKARTE Link-API

- 利用者情報取得API
- 介護保険情報取得API
- 公費情報取得API
- 職員情報取得API
- ベッド情報取得API
- スケジュール情報取得API
- :
- 見守り情報登録API
- 巡回情報登録API
- ナースコール情報登録API
- バイタル情報登録API
- 食事情報取得API
- 排泄情報取得API
- 入浴情報登録API
- 睡眠情報登録API
- 体動情報登録API
- リハビリ情報登録API
- :

APIを使用した連携イメージ

- 見守りシステム
- ナースコール
- サーモセンサーシステム
- 音声入力システム
- 訪問系システム

※ユーザー様にて導入している機器やシステムとの連携をご希望される場合は、連携先メーカー様をご紹介下さい。

連携開発の流れ

CARECONNECTJAPAN

連携しよう！ → 秘密保持契約 → 連携詳細の打ち合わせ → API組込み開発 → 連携テスト → リリース

連携先メーカー様

「話す」だけで、介護の仕事をシンプルに。

介護スタッフの業務ツールは新ステージへ

「話す」だけで自動記録。

スマホ＋ヘッドセットの音声チャット(インカム)

ハンズフリーで音声連絡。

音声＋AIで入力された記録はCAREKARTEへ

CAREKARTEに連携。

リモート体験予約ページ→

CAREKARTE × ハナスト
で最強の介護記録入力環境を。

リモート体験予約ページ→

CARE KARTE Mobile

送信

CAREKARTE Mobile で一括入力

CAREKARTE Mobile で数値入力

排泄介助や入浴介助の場面では、モバイル入力はできないので…

CAREKARTE Mobile で項目から選択入力、

CAREKARTE Mobile で撮影→そのまま記録に

モバイル入力に慣れている人

CAREKARTE Mobile で文字入力

食事量	モバイルで一括入力しちゃった方がはやい
バイタル	手が離せない場合は、ハナスト記録で音声入力
排泄	ハナスト記録で音声入力（隠語対応してます）
入浴	ハナスト記録で音声入力
レク、機能訓練	ハナストでも入力できるけど項目から選んじゃったほうがはやい
写真	写真や動画はモバイルで
特変、長文	ハナスト記録で音声入力
連絡	ハナストインカムで職員間の連絡

モバイル入力に慣れてない人

ハナスト

連携

ケアカルテ 介護記録データベース

介護ＩＣＴ化のポイント

介護ＩＣＴ化のポイント

ハイブリッド認証システムから
顔認証システムへ転換

デジタル化された明確な記録により
労使間のトラブル（不安・不信等）も解消

パソコンの中にＡＩ（人工知能）を配置

ＲＰＡシステム

Robotic Process Automation

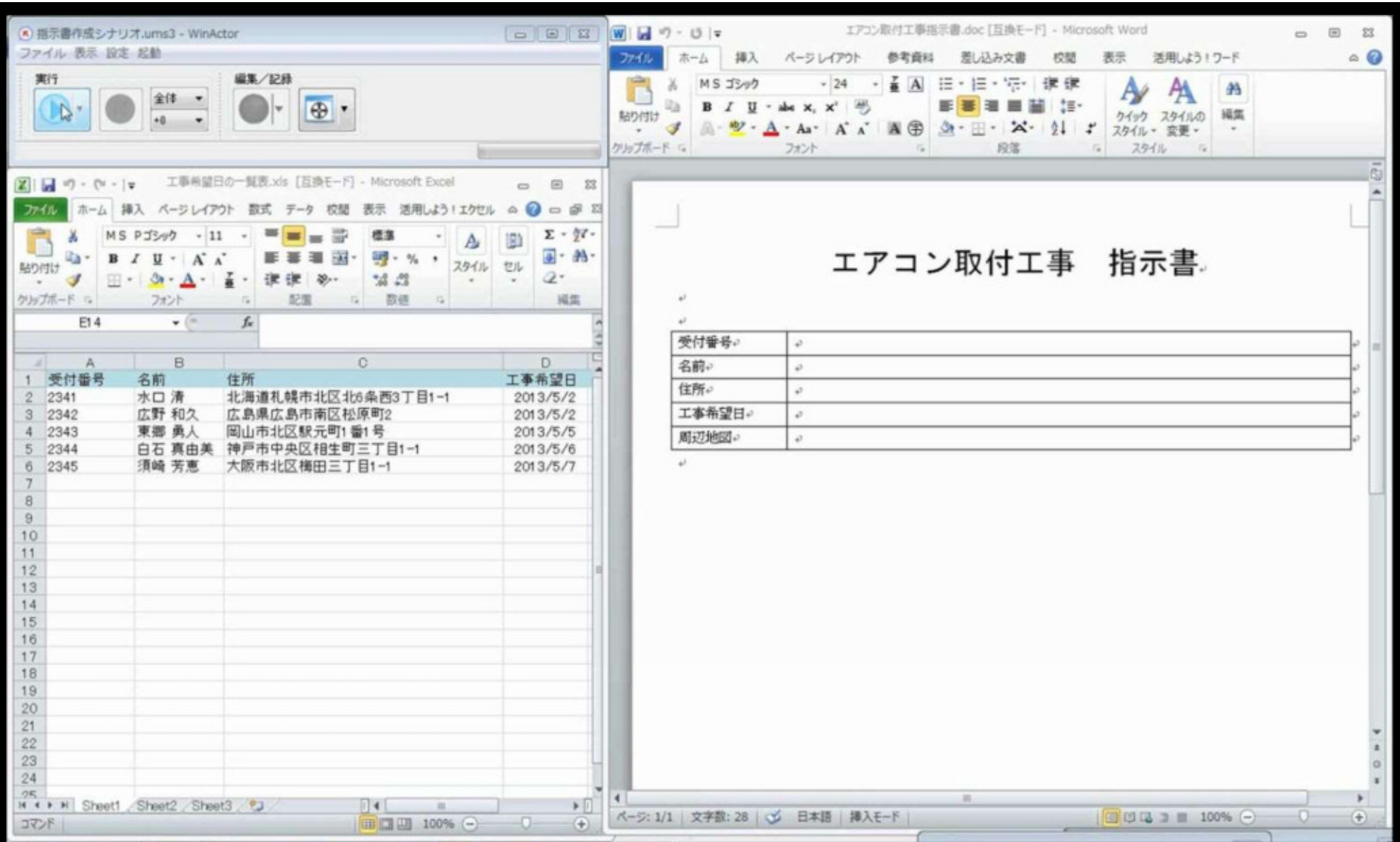
業務システム向けRPAツール

WinActor

ウィンアクター

RPA導入背景は、政府施策の「労働人口の減少」や「働き方改革の推進」を軸として、
「新型コロナ対策」を機に導入が加速化されております。

導入背景	課題	取組	
労働人口減少 ・業務の自動化、AI導入等	**人材不足の解消** ・多数の優秀人材確保が厳しい	**業務整理** ・業務フローの整理 ・作業手順の明確化	**リソース有効活用** ・既存スタッフの有効活用
働き方改革の推進 ・長時間労働の抑制	**業務の効率化** ・長時間労働の抑制		**定型業務の自動化** ・定型業務の自動化
新型コロナ対策 ・既存スタッフの安全確保 ・景気低迷での事業継続	**リモートワーク導入** ・在宅勤務環境の整備		**人的ミスの防止** ・品質の維持向上 ・セキュリティ対策


指示書作成シナリオ.ums3 - WinActor
ファイル 表示 設定 起動
実行
編集／記録
工事希望日の一覧表.xls [互換モード] - Microsoft Excel
受付番号 名前 住所 工事希望日
2341 水口 清 北海道札幌市北区北6条西3丁目1-1 2013/5/2
2342 広野 和久 広島県広島市南区松原町2 2013/5/2
2343 東郷 勇人 岡山市北区駅元町1番1号 2013/5/5
2344 白石 真由美 神戸市中央区相生町三丁目1-1 2013/5/6
2345 須崎 芳恵 大阪市北区梅田三丁目1-1 2013/5/7
Sheet1 Sheet2 Sheet3
エアコン取付工事指示書.doc [互換モード] - Microsoft Word
エアコン取付工事　指示書
受付番号
名前
住所
工事希望日
周辺地図
ページ: 1/1 文字数: 28 日本語 挿入モード
14:51
2014/02/09

WinActor®

WinActor®の活用例

- 工事のための作業指示書
- 商品受注業務の入力作業
- ダイレクトメールの宛名書き
- 割引サービスの請求処理

[WinActor®の導入事例：商品受注業務の自動入力化]

	受注	リスト作成	システム投入	発送手続き	完了	計
WinActor®導入前	手動入力 60 分/日	手動入力 300 分/日	手動入力 120 分/日			480 分/日
WinActor®導入後	自動入力 3 分/日	自動入力 5 分/日	自動入力 2 分/日			10 分/日

作業時間 480分 がたった → 10 分に短縮！ 1/50

※元のシステム構成や作業数により作業時間は異なります

　RPAシステム導入の目的は、少ない人手でより多くのアウトプットを生み出し、利益の最大化を目指した上で働き方を変えることにあります。職員の労務負担を減らし、余力によって生み出された利益を給与や自分自身へ投資する時間（休暇が取りやすい状況等）として還元できれば、“personality：自分らしさの確立”や“所得倍増”も夢ではありません。